



ウッドハッカー MEGA540 (中央：緑)

**発電用チップ生産本格稼働  
木質高速破砕機  
ウッドハッカー 導入**

令和2年4月より「ウッドハッカー MEGA540」を導入し製品チップ生産の本格稼働に入りました。

平成30年に導入(中古)チップパーは、令和元年10月より生産を開始しました。しかし、当初計画の年間1,300tに対して実績は、353tと振るいませんでした。



発行所  
秦野市菖蒲 317 番地  
神奈川県森林組合連合会  
総務指導課  
電話 0463-88-6767 (代)  
ホームページ <http://www.kenmoriren.jp/>

これは、期待していた処理能力が発揮できないことに加えて、スクリーニング機能がないため、規格外の大きなチップが混入し、それを屋内チップヤードで埃と排気ガスが充満しているなか、手作業で取り除く過酷な作業が強いられ、チップ生産効率が非常に悪いことに原因がありました。

一方、チップ原材料用の原木は活発に入荷され、当初計画をはるかに超え令和元年5月から令和2年3月までの11か月間で月平均300トン越えの入荷があり、その結果、土場にはチップ原材料の原木で溢れかえり、置き場に苦慮する時期が続き、出荷制限をしなればならない状況でした。

この課題をクリアするためにも、処理能力が高いチップパーの導入が求められました。

そこで、令和元年11月28日の理事会にて「チップ生産事業の進捗について」現状を報告し、木質バイオマス発電用チップ生産事業の経営診断を行い、令和2年2月5日の理事会で承認され導入に至りました。

導入したウッドハッカーは、最大加工径56cm、処理能力10t以上

時間、その他、自走式のためチップのストックヤードや丸太の集積箇所でも作業が出来る事とチップ運搬車に直接チップを吹く(積込)ことも出来る仕様であることから、燃料用チップの生産も4月は265t、5月は397t(他パーク51t)でしたが、6月は698t(他パーク31t)7月は700tと月毎に増産し本格的に稼働することが叶いました。この陰には、加工担当職員の汗と苦悩、努力があったことは言うまでもありません。

このスピードアップにより、逆にチップ原材料の原木を十分に集荷できる不安もありましたが、系統の森林組合をはじめとする出荷者の皆様のおかげで、今年度も順調に入荷し、7月までの4か月で1,811tの入荷を頂きました。

また、運搬については、株式会社タケエイグリーンサイクルと運搬契約を締結することによって、横須賀バイオマスマスエナジーのチップ



チップ処理を待つ原木の積みみ

■チップ原木入荷量・生産量の推移

(単位：t)

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入荷量	元年度		346	347	236	227	572	485	149	330	465	370	114	3,641
	(原木販売)								319	768				1,087
	2年度	132	601	742	336									1,811
生産量	元年度							62	63	49	84	53	42	353
	(パーク)		51	31										82
	2年度	265	397	699	700									2,061

ブ運搬車と株式会社タケエイグリーンサイクルのチップ運搬車で月に約70台の運搬体制が構築できたことも、本格稼働に大きく貢献しています。

今後、本事業の推進により「間伐材をより高く、確実に販売することによる県森連並び系統組合の事業運営の安定化と組合員への利益還元機会を拡大する為、系統組合の皆様にはなお一層の出材をお願い申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により木材販売単価は低迷しており、新設住宅着工数もリーマンショックの影響を受けた2009年の78万戸を下回る見込みとなっています。

一方、入荷状況は、4月335m<sup>3</sup>、5月147m<sup>3</sup>の推移で半年並みとなりましたが、5月の連休明けから出材が活発になり、緊急事態宣言も解除されたことで販売先も徐々に稼働し始め、6月85m<sup>3</sup>、7月1702m<sup>3</sup>と取扱量は増加しています。

販売状況は、主要部材であるヒノキの柱・土台の構造材に例年程度の注文があり、スギの4m中目に構造及び羽柄材としての新たな注文が入っています。

但し、土木用材や合板用材等、B材の販売先の工場が減産しており、規格や単価の見直し、納材量の制限が行われています。

このような状況下、建築用材は構造材を中心に小戻ししており堅調に推移していますが、取扱量の大半がB材のため、単価上昇に繋がらない厳しい状況です。

今年度も引き続き森林組合が中心となって取り組む、長期施設受委託事業による系統からの出材が相当量見込まれています。

今後も高値販売で山元に還元できるような販売努力をまいりますので、会員の皆様には、良質材の出荷をよろしくお願いいたします。

木材共販市況

県森連林業センター 木材市況

令和2年8月20日

(単位：円)

樹種	長さ(m)	末口径(cm)	価格1m <sup>3</sup> 当り			気配	摘要	
			高値	中値	安値			
スギ	3.0	14	11,000	9,000	4,000	○	柱目3.5寸	
		16~18	11,000	10,000	5,000	○	// 4寸	
		20~	12,000	11,000	5,000	○	中目	
	4.0	11~13	10,000	8,000	4,500	○	母屋取り	
		14	10,000	9,000	6,000	○	桁目3.5寸	
		16~18	11,000	9,000	6,000	○	// 4寸	
		20~22	11,000	9,000	6,000	△	中目	
		24~28	13,000	10,000	6,000	○	//	
		30~	13,000	10,000	6,000	○	//	
	6.0	16~18					元玉選木	
20~22						通し柱4寸		
ヒノキ	2.0	26~	25,000	10,000	5,000	○	元玉	
		3.0	14	15,000	10,000	8,000	○	柱目3.5寸
		16~18	18,000	18,000	14,000	△	// 4寸	
		20~22	18,000	18,000	14,000	△	中目	
		24~28	17,000	16,000	13,000	○	//	
	4.0	30~	20,000	16,000	13,000	○	元玉選木	
		11~13	10,000	9,000	8,000	○	母屋取り	
		14	15,000	10,000	9,000	○	土台目3.5寸	
		16~18	17,000	17,000	9,000	△	// 4寸	
		20~22	17,000	17,000	9,000	△	中目	
6.0	24~28	15,000	12,000	9,500	○	//		
	30~	17,000	12,000	9,500	○	//		
	30~	30,000	20,000	10,000	○	元玉選木		
	16~18	35,000	25,000	20,000	○	通し柱4寸		
	20~22	35,000	25,000	20,000	○	// 5寸		

注)売上総数量1,605,756m<sup>3</sup>

△ 強気配 ○ 保合 ▼ 弱気配



県産材天板を使った学習机

一方、神奈川県の場合、水環境保全税による取組とのすみ分けがありますし、全国的に見て都市

・緑地の整備  
 ・広葉樹林の内装木質化  
 ・公共施設の内装木質化  
 ・小学校教室の床張り替え  
 ・学習机の木製天板導入

**3 森林組合がやるべきこと**  
 国は、森林環境譲与税は基本的に森林経営管理制度の財源として活用されるという考えです。この場合、地域の森林の状況や所有者情報を把握し、森林整備のノウハウを有して、木材生産にも取り組んでいる森林組合系統が、市町村の業務を支える体制の一員として、森林経営管理制度の運用に積極的に関わっていくことが森林組合系統の責務であると考えています。

かながわ水環境保全・再生の取組として平成24年度から実施しております長期施業受託事業は、令和8年度をもって個人県民税の超過課税が終了することに伴い、この事業が終了し、補助金の縮減が予想されます。

このため、森林組合は、補助金縮減後の契約の履行、収益性の確保を見据え、令和8年度までの中期計画を作成し、①森林経営計画の策定 ②造林補助事業の活用 ③路網の拡充等を計画的に進めていきます。

また、地理的条件等から、多く

長期施業受託事業 新たな局面

部に位置するので木材利用の促進が求められているという状況があります。

また、林野庁長官が次の見解を述べたという報告があります。「森林環境譲与税の主務官庁は総務省であり、税の交付・配分の手法として地方譲与税を採用したため、林野庁が予算措置等を通じて指導・助言できない状況である。」(森林環境譲与税の執行環境に関する速報と地域差分分析の試み 農林金融 2020/1)

こうした状況を踏まえると、いま森林組合がやるべきことは、市町村から声がかかるのを待っているのではなく、市町村に対し森林整備や木材利用など税の使途に関する提案を継続的に行っていくこととです。森林組合長は首長と面会する機会も多くあるかと思えますので、その際はぜひ森林環境譲与税の使途を話題にしてくださいようお願いいたします。

本、椎茸原木106千本、トリカernet59千枚といったところが目を引きますが、令和元年度には苗木55千本、椎茸原木21千本、トリカernetはゼロとなりました。

一方で、菌床は取扱ゼロから120千玉となっております。

**〈全国との比較〉**  
 令和2年6月に公表された「令和元年度森林・林業白書」では、森林組合の事業取扱高を次のように分析しています。

森林組合の事業取扱高を「販売」「加工」「森林整備」別にみると、平成17(2005)年時点では「森林整備」が全体の63%を占めており、「販売」22%、「加工」13%となっていたが、平成29(2017)年には、「販売」が36%まで増加する一方、「森林整備」は51%に減少しており、森林組合においても販売事業を強化していることがうかがえます。

全国の森林組合と当連合会との直接比較は検討の余地がありますが、当会の場合、先に記したとおり販売部門の割合は取扱高では下がってきているものの取扱量は倍増しており、現在の入荷状況等動向を踏まえると今後上昇に転じていく可能性が高いことから、販売部門をしっかりと運営していくことが大変重要と考えていますので、引き続きご支援をお願いします。

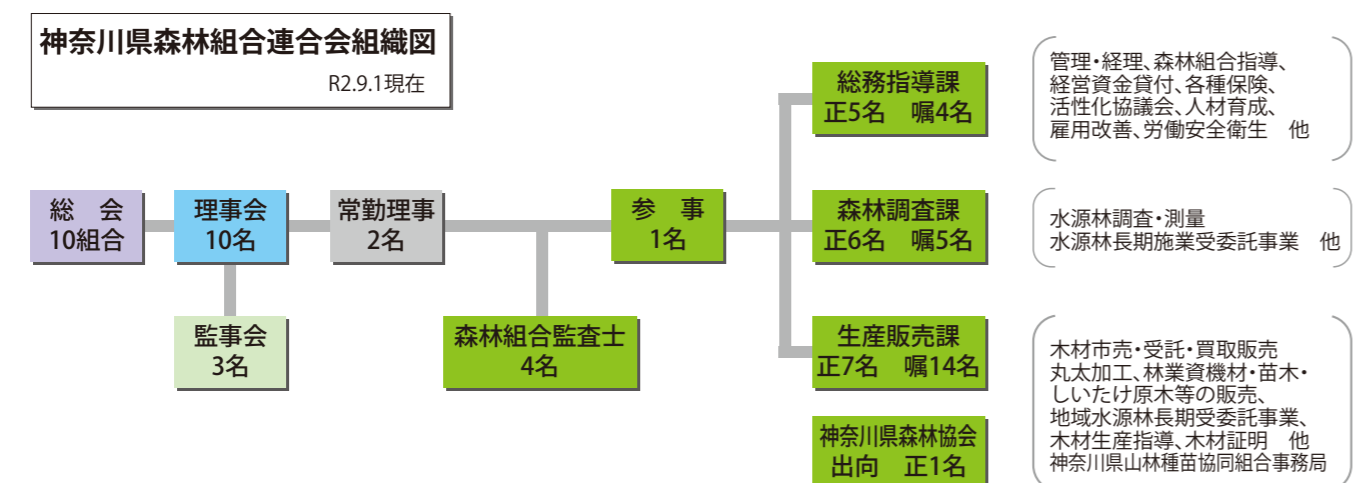
の事業対象地を抱え実施体制の確保が困難となっている森林組合と、事業対象地が少なく余力のある森林組合が顕在化してきました。

そこで、連携協定等により、両者の協業による木材生産等の収益性と水源かん養機能の高次発揮を効率的かつ効果的に進める取組みをしています。

現在は、実施年度を迎えてから実施体制を構築することが主であり、工期の確保が困難となつていくところがあります。今後、複数年度にわたる実施体制を構築し、強固な連携のもと計画的かつ適切な事業運営に取り組むことが必要と考えます。なお、令和3年度からは、「意欲と能力のある林業経営者」となった民間事業者が長期施業受託事業を実施できることとなりました。

森林組合と「意欲と能力のある林業経営者」となった民間事業者の共通理解を図り、手入れ不足の人工林を効率的に整備すること、収益性の確保と公益的機能の増進を図るよう努めます。

資源循環による持続可能な人工林」という長期施業受託事業の目標林型、補助金額の縮減や、Ⅷ級以上が90%を占める偏った年齢構成、近年頻発する集中豪雨等を勘案すると、森林所有者をはじめ、災害に強い路網を基幹とし、適切な伐採区画を設定し、更新を図ることが重要と考えます。神奈川県森林組合連合会は、そのために技術的知見の蓄積、普及に努めます。



県森連における事業 取扱割合の推移

本会は昭和16年に発足し、令和2年で89年目を迎えました。会員の皆さんに役立つと同時に、その時々々の社会要請に応えるための事業に取り組みしてきましたが、今回、この20年間で事業部門ごとにどのような変化があったのか整理してみました。

**〈指導部門〉**  
 平成22年のかながわ森林づくり公社解散予定に伴い、平成20年度から担い手育成に関する業務を受託し取り組んできたため、取扱高が上昇しました。

**〈販売部門〉**  
 部門の割合が20年間で36%から27%となりました。受託販売(共販)の取扱高は20年間で3割減、一方で取扱量は平成11年度が7,452.2m<sup>3</sup>、平成21年度が11,546.2m<sup>3</sup>、令和元年度が14,619.2m<sup>3</sup>と20年間で倍増しています。これは木材価格の長期低迷と、水源環境保全・再生施策による間伐材搬出支援で単価の安い低質材も搬入され販売されることによるものと考えられます。

なお買取販売は、平成24年度から県外の合板工場へ原木を供給して、県産材100%ヒノキ合板を製造販売するルートを確立したことから、割合が上昇しました。

**〈加工部門〉**  
 部門の割合は20年間で17%から4%となりました。取扱高は20年間で7割減、取扱量も平成11年度、平成21年度はそれぞれ杭丸太を11万本以上生産しましたが、令和元年度は38千本となっております。公

区分	事業	取扱高 (千円)			割合		
		H11(1999)	H21(2009)	R1(2019)	H11(1999)	H21(2009)	R1(2019)
指導	指導	1,305	9,072	43,229	0%	1%	5%
	受託	236,684	216,805	165,626	33%	24%	20%
販売	買取	21,704	33,874	57,189	3%	4%	7%
	加工	121,960	82,307	35,797	17%	9%	4%
森林整備	森林整備	0	987	83,548	0%	0%	10%
	利用	166,657	336,092	248,032	23%	37%	30%
	購買	172,699	219,576	196,064	24%	24%	24%
	金融	1,107	951	347	0%	0%	0%
計		722,116	899,664	829,832	100%	100%	100%

共工事予算の減少、森林整備業務での使用減が原因と考えられます。

森林整備部門

現在、部門の割合が6割を超えています。特徴は三点あります。

・森林整備は、平成29年度に作業班を創設し、森林組合のない市町村の地域水源林で活動を開始、令和元年の割合は10%です。

・利用は、かながわ森林づくり公社が担っていた水源林関係の調査業務について、平成20年度から業務を受託し取り組んできたため、取扱高が上昇しました。

・購買は、取扱高に変動はあるものの、20年間で割合が25%程度で一定しています。取扱品目を見ると、平成11年度は苗木161千

森林環境譲与税 に関する動向

**1 税の使途**  
 概要  
 森林環境譲与税は、地球温暖化防止に向けた温室効果ガス排出削減

減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要と必要と創設され、令和元年度から人口や森林面積等に比べて県及び市町村に譲与が開始されました。

税の八割が市町村に譲与され、市町村は森林整備やこれに関連した人材育成・普及啓発、木材利用の促進を行っていくこととなります。

**(2) 森林整備**  
 本県の場合、すでに水源環境保全税による取組を行ってきたため、県では「森林環境譲与税を活用した森林管理によるガイドライン」において、譲与税を充てることのできる森林整備は、水源施策エリア外の森林及び水源施策エリア内の水源かん養機能上整備が必要な森林とし、エリアによるすみ分けを明示しています。

なお「水源かん養機能上整備が必要な森林」とは、広葉樹林(住宅地、農地周辺等)、竹林、小規模な森林とされています。

よって、水源環境保全税による森林整備が可能な森林は、譲与税では整備ができません。

**(3) 木材利用**  
 神奈川県森林協会発行の「緑の斜面」70号では、令和2年2月に行った市町村への木材利用に対するアンケート結果が報告されています。それにより、①公共建築物の木材・木質化については今後検討予定を含めて、計画があるが19市町(73%)、②使用する木材は県産木材を使いたい、14市町(54%)となっております。よって、多くの市町村が地元産の木材利用を促進したいと考えていることが

# 森林組合探訪

## 愛川町森林組合

第3回目となる今回は愛川町森林組合さんにお邪魔して参事の山野晋作さんとお話を伺って参りました。

愛川町森林組合は県内でも数少ない製材・加工販売を行い地元住宅建築等に貢献してきた組合のひとつですが、近年は全国の例に漏れず地元の宮大工の方々やその他工務店の廃業等により製材品の需要が減少しており製材・加工販売事業は厳しい経営を余儀なくされています。その様な中、町の製材工場としての機能を維持しながら且つ今まで以上に地元や組合員への貢献を図る為、経験豊富な作業員の採用や既存の作業員の方々のスキルアップを図るなどにより今後は森林整備事業に一層力を注いでいかれる方針の様です。



大野参事

の体制が徐々に整いつつある状況です。



愛川町森林組合 事務所棟 (右) と製材棟 (左)

### 優秀な人材を集める

先には前参事の日影正芳さんが「組合の経費負担は増加するが時代に合せて社会保険等を充実させないと優秀な人材を集められない」と、この点の改善を図られました。

大野参事のお話では作業員単価(日給)が高く設定されていることも理由のひとつと考えられるとのことですが、昨年のNEWFACEで紹介させて頂いた新井雅之(技師)さんの存在も大きい様に感じられました。

### 将来に向けて

今後の課題等としては、まずは今まで関係性の薄かった他の組合との協力体制を図りながら森林整備事業を充実させていくこと。その為にも研修等への積極的な参加による作業員スキルの上昇や高性能林業機械の導入を進めていく。事業面では、現場の態勢が整って来たことから、今までは参加していなかった県の入札等にも、来年度以降は参加して行きたいとのこと。また、現在は一律である作業員の給与体制を見直し、本人達のやる気に繋がるような給与体制を検討して行きたいとお考えでした。

組合運営面では、大野参事ご自身の独断に陥らぬような体制の必要性を感じておられ、組合の方向性を相談しながら進められるよう、常勤役員を設置を進めたいとも話しておられました。

さらに将来的には、森林を育てるための根幹である苗木生産などにも取り組むたいと語っておられました。

最後に製材・加工販売事業も維持したいながらも置かれた現状から、販売加工主任の森聡則さんへ負担を掛ける形となることを心苦しそうにお話されていたことも、真面目な大野参事らしく感じ、非常に印象に残りました。

今回はお忙しい中にもかかわらず丁寧なご対応を頂き誠にありがとうございました。

## 令和3年度

### 農林水産施策要望

神奈川県森林・林業5団体(木業協同組合・山林種苗協同組合・森林協会・林業経営者協会・森林組合連合会)を代表して、県森連が県農林水産団体協議会の一員として、県、政党に対して7月から順次、内容説明の上、令和3年度農林水産施策要望を行いました。

#### 1 森林環境譲与税について

(1)公共建築物の木造・木質化の促進について  
森林環境譲与税を活用し、公共建築物の木造・木質化が促進されるよう、市町村に対して指導・助言されるよう要望します。

#### (2)大径材の有効活用について

市町村が行う学校施設等の木造木質化に、用途の開拓が必要な大径材の有効活用を要望します。

#### 2 水源環境保全・再生施策について

(1)水源環境保全・再生施策の継続実施について  
水源環境保全・再生施策大綱期間終了後の事業継続等を要望します。

#### (2)間伐材搬出促進事業について

水源環境保全・再生施策大綱期間終了後を見据えた支援施策の創設を要望します。

#### 3 令和元年度東日本台風被害の早急な復旧について

台風により被害を受けた林地及び林道施設の早急な復旧を要望します。



「秦野市菖蒲 県森連林業センター土壌上のナラ枯れ」2020.8月

4 公的管理森林の返地後の森林の現況調査について  
公的管理森林の返地後の整備・管理を促進するための森林の現況等を把握する制度の創設を要望します。

#### 5 花粉発生源対策の推進について

無花粉ヒノキの普及啓蒙等を図るため、実証林の設定を要望します。

#### 6 森林病虫害の防除について

カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害の予防対策への支援を要望します。

#### 7 森林情報の一括した管理システムの導入について

県内市町村統一の森林情報管理システムの導入を要望いたします。

#### 8 一般業務委託入札における最低制限価格制度の適用について

森林整備のための調査について最低制限価格率を適用するよう要望します。

## 神奈川県森林協会

### 出向から1年を迎えて

神奈川県森林協会 石鍋 聡  
昨年の8月1日付で神奈川県森林協会へ出向となり、はや1年が経過しました。私は、「県森連は、森林組合への出向しかない」と思っていました。「県森林協会」と内示を受け、驚きと同時に、「全く違う組織へ行く」という覚悟をいたしました。

限られた時間で出来る限りの引継ぎを行い、森林協会のアドバイザーとして着任いたしました。

協会は県内全市町村と県森連・森林組合を会員とする団体であるため、県は令和元年度から施行された森林経営管理法及び森林環境譲与税に関する取組を支援することを目的とした「市町村林政支援業務」を協会に委託し、現在は本業務の担当となっています。当業務は県の普及事業の一環として位置付けられており、全市町村が支援対象となっており、全川崎市や三浦市など行ったことが無い都市部の市町村へも出向き、森林整備や木材利用に関するアドバイスを行いました。初年度だったこともあり「林業」という視点がない



秦野市森林組合生産地視察 秦野市養毛地内

市町村との会話はかみ合わないうえに、市町村が主体となって実施する業務を支援することが目的であるため、国や県の方針をこうすべきと押し付けるわけにもいかないことでのジレンマがありました。

例えば県産木材の普及活動において、森林環境譲与税は都市部に多く配分され木材利用を実施する市町村が多いことから、少しでも県産木材を活用していただけるようPRをするものの、「価格が高すぎる」「量が少なく納期が不安」「発注時に材料を指定する理由が無い」など昔から言われてきたことが一向に改善していないことがわかりました。

一方、山間部の市町村は配分が少ないことにより事業化が困難であるという課題があります。森林整備の原資は水源環境税で賄われており、現時点では予算が足りないといったことはありません。ただし水源環境税の財源は都市部の負担が多く、我々はその財源を元に木材を生産しています。しかし、そのうち4割は木材消費地であるにもかかわらず、加工施設が無いなどの理由により、県外へ出荷せざるを得ないという現状があります。製材品を林業が盛んな県と価格や品質で競争することは現実的ではありませんが、せめて県内で生産された木材を都市部へ送り届けるために、早急な出口対策に取り組む必要があると考えています。これからは公共施設の木質化を始めとする各市町村の課題を解決するために、行政や林業関係者への支援や情報提供を積極的に続けたいと思います。



### 森林整備作業班の今後のキャリアビジョン

平成29年の創設から、3名体制で実施してきた直営作業班も4年目を迎え、今年度1名の入れ替えがあり新たな班構成で再スタートとなりました。

主流である森林作業道を活用した素材生産を実施してきましたが、当初は適切な雨水の排水処理が上手くできず、場所によっては降雨後に修復が必要でしたが、徐々に経験を重ねて傾斜・雨水の流れを掌握できるまでになり、丈夫な道づくりが行えるようになりました。

また、発電用チップ生産が本格的に稼働し始めたので、少し労力はかか



湯河原町地域水源林長期施業受委託契約地 湯河原町吉浜地内

りますが、間伐材を搬出し整備地内の残材(未利用材)を極力少なくし丁寧な山づくりを実施することで、このところ多発する集中豪雨での山林内からの残材の流出防止に繋がることと捉え整備に取り組んでいます。

搬出材積も順調に増えてきており平成29年度に393m<sup>3</sup>、平成30年度に728m<sup>3</sup>、令和元年度に862m<sup>3</sup>を直営班で搬出を行い、山林所有者へm当たり三千〜五千円を還元することが出来ました。

今後は更なる効率化を少人数で目指すため、作業員一人一人が作業全体の流れを把握しオールマイティーに適宜対応できるように努力していきます。

### 林業センターの紹介

共販業務は、丸太の荷受けから始まり、販売先によっての仕分けと市の開催、出荷して頂いた材の委託販売をしています。6月より新たに1名が加わり、現在7名(内2名は津久井貯木場及び堀山下貯木場を担当)で従事しています。

ニーズが多様化し即応性が求められる昨今、市場は常に流動的の出荷者と買い方、双方のニーズに応えるため、常に情報等収集し、少しでも有利に販売出来るよう、販売先の確保に努めています。

加工業務は主としてロータリー丸太の生産を行っております。原材料の小径木を丸棒削り機へ投入して目的



の太さに加工をします。

通常であれば1日に100本程度を加工しており、それらが必要な長さにかットして販売しています。

まっすぐな木ばかりではないため、曲がった木はなるべく余すところの無いように様々な長さでカットすることで木材の有効活用に努めています。

夏場の加工場内温度は40度近くになる日もあり、厳しい作業環境になる日があります。機械を操作するため、集中力を切らさずと思わぬ事故や怪我につながりかねないので熱中症対策をしながら安全作業に努めております。

この6月より新人1名を加え現在4名で作業しています。



### 「緑の雇用」研修を終了して 秦野市森林組合

■岩崎隆道さん

私は、かながわ森林塾を経て秦野市森林組合に就職し、「緑の雇用」フォレストワーカー研修を3年間受講しました。実技講習などは、経験豊富な林業会社の方々に安全第一で教えて頂き、学科関係は各専門家の方から丁寧に教えて頂き、疑問に思ったことも気軽に聞くことができ感謝しております。

森林塾からの仲間やこの研修で知り合った方と、共に助け合いながら切磋琢磨し、精神面及び技術面など以前の自分より成長出来た実感があります。しかし、未だ未熟な自分に不安を感じる事もあります。今後もしっかりと皆様に感謝し、些細な事も相談し、ご指導いただきながら、研修同期の仲間達とこの研修で学んだことを生かし、早く一人前の林業従事者に成れるよう頑張ります。

その為にも、職場の先輩方からご指導いただいたことを一つずつ確実に覚え、更に研修等に積極的に参加し自己研鑽を積み、森林をより美しく育て、守っていきけるように日々精進していこうと思えます。

# NEW FACE

津久井郡森林組合 【職名】技師補

■吉田賢治さん

【年齢】43歳

【趣味】トレイルランニング

私は「トレイルランニング」と言うスポーツを趣味でやっています。

「トレイルランニング」とは山を走るスポーツです。様々な距離の大会があり、短いと500mぐらい、長いものでは170kmもの距離を走ります。そのような趣味に取り組み、毎週のように山に通う中で「自然に関わる仕事」「山に係わる仕事」に就きたいと思うようになり、林業を志すようになりました。

組合に早く貢献できるように、仕事を覚えるために日々奮闘中で皆様よろしくお願致します。



神奈川県森林組合連合会 【職名】技師

■正野光範

【年齢】49歳

【趣味】自転車散歩、野菜づくり

大学卒業後、建設コンサルタントにて砂防、治山関係の調査、計画、研究及び設計業務等に携わりました。木材加工業等を経験した後、森林関係の仕事に戻ろうと伊勢原市森林組合に就職しました。8か月ほど作業班として従事した後、縁あって県森連の森林調査課に嘱託職員として転籍しました。そして、今年の3月に技術士(森林部門)の資格を取得したことを機に職員採用となりました。

現在は、水源林確保に関する調査業務、承継分収林の調査業務等を主に担当しています。これから、体の動く限り、神奈川の森林を歩き回りたいと思います。



神奈川県森林組合連合会 【職名】技師

■岡本浩史

【年齢】25歳

【趣味】スポーツ観戦

今年度より森林調査課に配属となりました岡本浩史と申します。前職は住宅外構工事の営業、設計、施工管理を行っておりました。

県森連では主に長期施業受委託事業を担当させて頂いております。微力ながら神奈川県全体の森林づくりに貢献していきたいと思っております。まだまだ分からないことばかりです。皆様にご迷惑をお掛けすることが多々あるとは思いますが、精一杯業務に取り組みます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

